

第2章 町家実測調査

第2章 町家の調査

1. 大島電機倉庫

(1) はじめに

大島電機は本町通り（本町6丁目）の西側に店を構えている。この建築は大島電機の北側に隣接し、現在は倉庫として使用されているが、以前は店舗兼用住宅であった。

この建物の魅力は、吹抜のある内部の空間であろう。頭上高くに設けられた明かり窓から差し込む光が、吹抜にみえる重量感のある柱や梁等の木組を美しく照らし、開放感のある空間がより引き締まったものとなっている。

(2) 建物の現状

この倉庫は、もとは間口3間の高田に多く見られる一列型の町家であった。現在は倉庫として使われているため、1階はもとの床を取り払って、表から裏まですべて土間（コンクリート打ち）となっている。2階は、表側（東側）から裏の庭側（西側）にかけて、オモテザシキ（奥行2.5間）、吹抜（奥行2間、渡り廊下あり）、そしてウラザシキ（奥行2間、1.5間の続座敷）と続く。雁木は落し式、屋根は瓦葺、一部トタン葺である。

(3) 建築の変遷

当建築は、もともとは明治20年より数年前に広瀬家が建てた町家である。広瀬家は呉服屋を営んでいたが、昭和38年にご当主が亡くなり商売を休止した。その後、住み手がなくなったこの建物を平成8年に大島電機が買取って倉庫に改造して現在に至る。

痕跡と聞き取りから推定すると、1階は間口3間のうち、南側の1間が通り土間であった。北側の2間分は居室であり、表から裏にかけて、ミセ（奥行2.5間）、チャノマ（奥行2間）、ザシキ（奥行1.5間）、ザシキ（奥行2間）という4つの部屋が続いている。高田の町家は3室構成であることが多く、ザシキが1室多い。2階は東西2間の吹抜を挟んで、表側に12畳半のオモテザシキが、奥の庭側には6畳のウラザシキが2間続きに配されている。建設当初から平成8年に大島電機

に買い取られるまで、おおよそこの形式を保っていたと思われる。倉庫として使用するために、1階の床を取り払い、南側の壁に1間分の開口をあけて大島電機の事務所への通路をつくったことが、大きく変更された点である。（山野敬史）



図2-1 大島電機倉庫正面



図2-2 大島電機倉庫吹抜

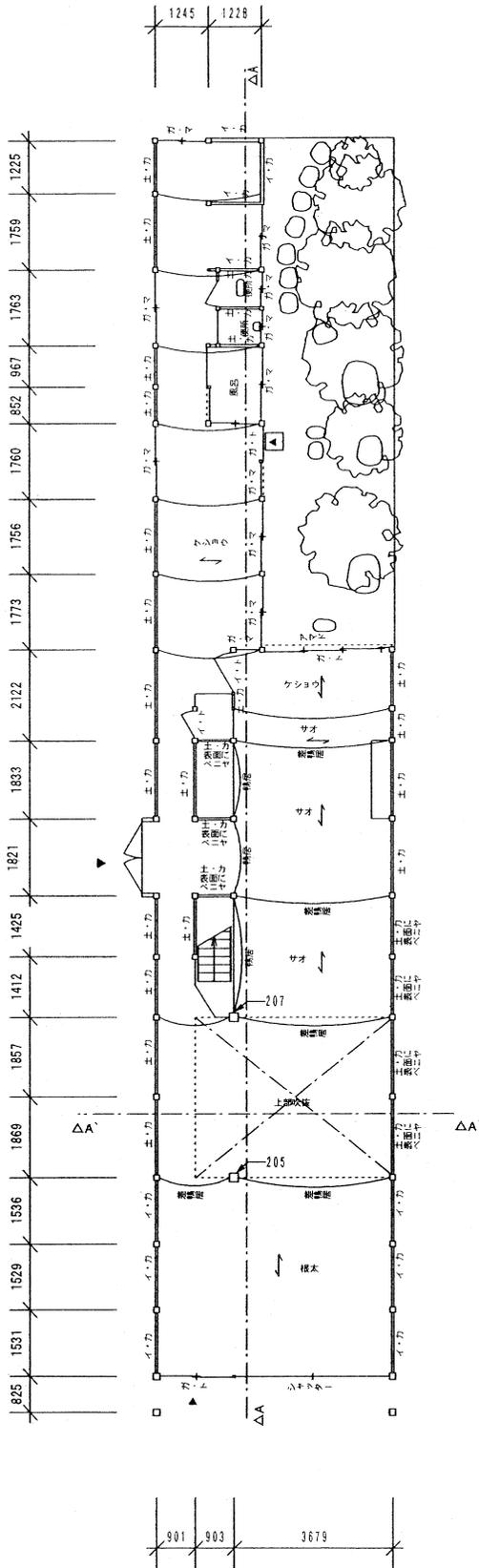


図2-3 大島電機倉庫 1階平面図

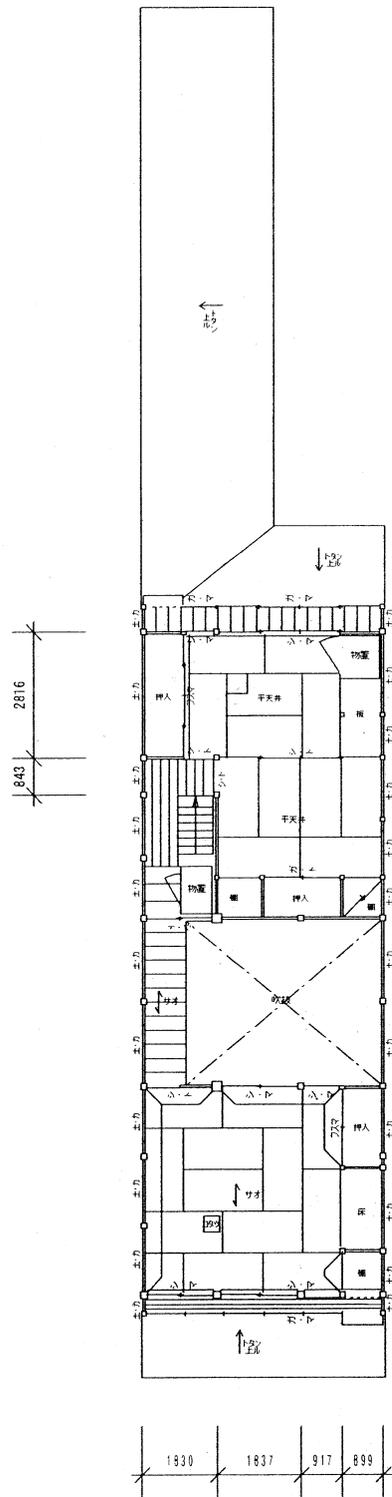
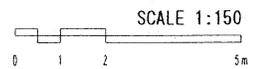


図2-4 大島電機倉庫 2階平面図



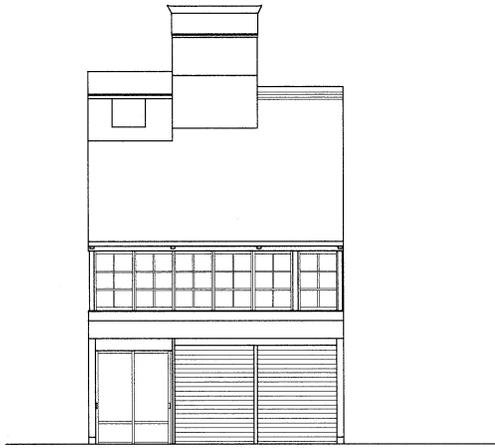


図2-5 大島電機倉庫立面図

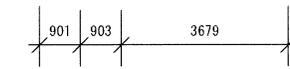
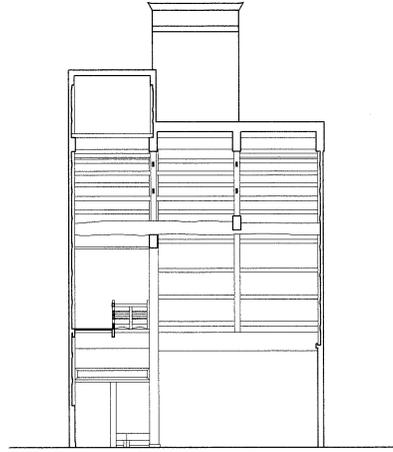


図2-6 大島電機倉庫梁行断面図

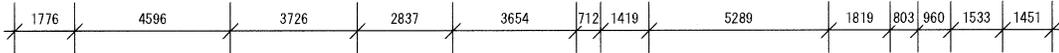
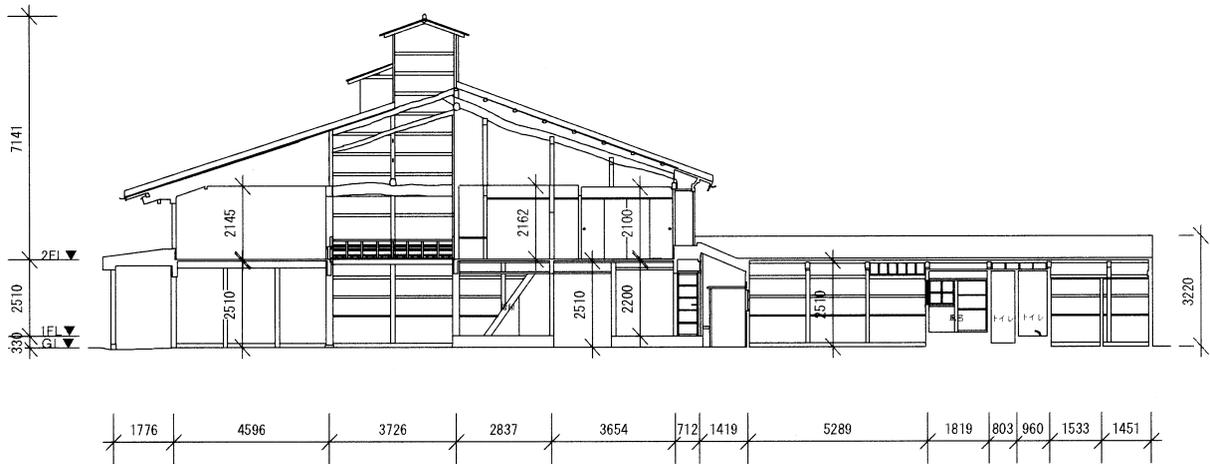
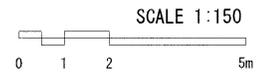


図2-7 大島電機倉庫桁行断面図

2. 山田表装店

(1) はじめに

山田表装店は本町2丁目に位置する。山田家が現在の場所に引越してきたのは昭和11年のことで、そのときから現在に至るまで、同家は表装店を営んできた。今回の調査では、隣家が使用している部屋（ウラニカイ）を除いた部分の実測と、現在の住人である山田チエさん及び毎日仕事場として通ってきている息子さんから聞き取りを行なった。チエさんは引越してくる以前にも幼少時代から度々この家を訪れており、昭和11年以前のことについてもある程度話を伺うことができた。

(2) 建築の現状

山田表装店の建物は、本町通りに面する間口3間、落し式の雁木を持つ町家である。木造2階建、平入トタン葺である。後述するが、北側の隣家が一部の部屋を使っているため、所々に変わった部分が見られる。北側に1間幅の土間が通り、表側からミセ（8畳）、チャノマ（10畳）、ザシキ（12畳）の3室が並ぶ。2階にはオモテニカイとウラニカイがあり、チャノマの上は吹抜となり、南側に「アルキ」と呼ばれる渡り廊下がある。現在ウラニカイは隣家が使っていて、ここへの階段の一部（隣家所有）が土間上部に張り出している。ウラニカイには当然アルキからの入口の戸があるが、現在は使われていない。1階奥の一室も隣家が使っていて、こちら側からは出入出来ない。したがって通り土間は裏庭まで真っ直ぐに通抜けけるのではなく、台所の横で中庭に出るようになっている。

現在、チエさんは主にザシキを生活の場として使っている。チャノマは昼間でも暗く、冬は非常に寒いときもあり、あまり使っておらず表装具を置いたりしている。チャノマの土間側の約半間分は畳を敷かず板敷となっていて、その板の下は収納スペースである。かつては多くの家にこのような床下収納があったそうだ。ミセは表装具を作るための作業場として使われており、道路側は四分三間ほどの踏み込みがあり、その南側に「サンカク」という材料置き場を設けている。また、2階にはあまり上らないそうで、オモテニカイは物置にしている。

(3) 建築の変遷

当建築は固定資産台帳によると明治20年に登記されているので、それ以前の建築であることがわかる。恐らく明治初期の建設と推定される。山田家が越してきた昭和11年以前は置屋であった。このあたりには軍人相手の芸者が数多く居て、このような置屋もめずらしくなかったという。入口の土間に、麻葉模様のタイルが貼ってあることが当時を偲ばせる痕跡である。

チエさんの記憶によると以前はアルキがなく、2階へはオモテニカイとウラニカイで別々の階段を使っていた。大正15年ごろにチャノマに階段とアルキを作りそれまでの階段は撤去したが、一段目の部分が今でも土間に残っている。

置屋の倒産の後に山田家が住むようになったが、当時は家族も多く、一部の部屋を第13師団の軍人に貸したり下宿人を置いたり人の出入りも多かった。ウラニカイを隣家が使うようになったのは昭和20年からで、そのときに隣家から直接入れるように階段が取り付けられた。（吉田想子）



図2-8 山田表装店正面

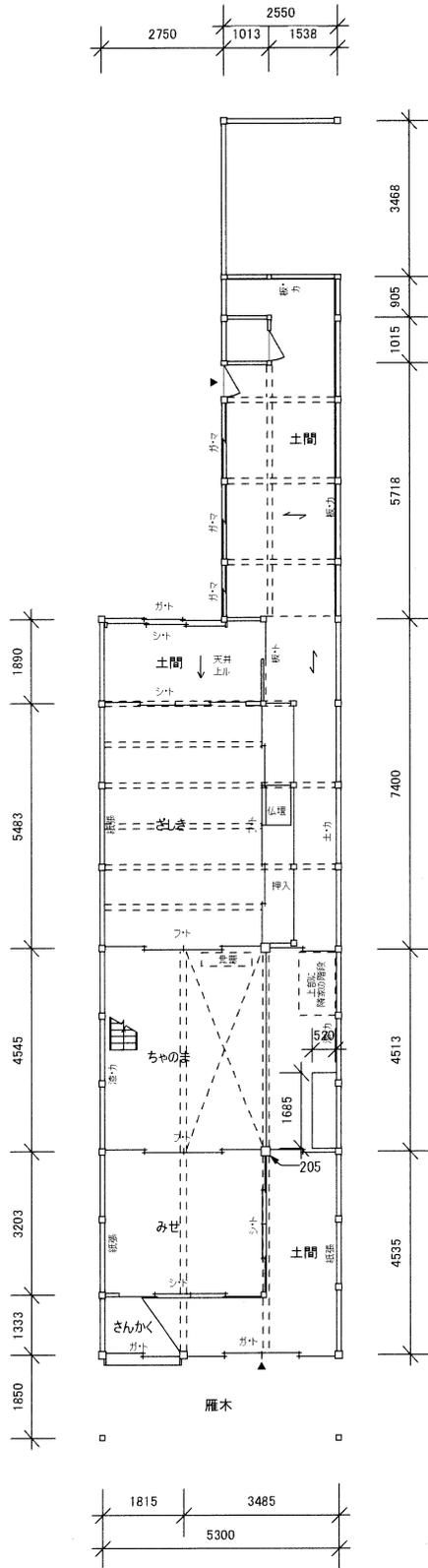


図2-9 山田表装店 1階平面図

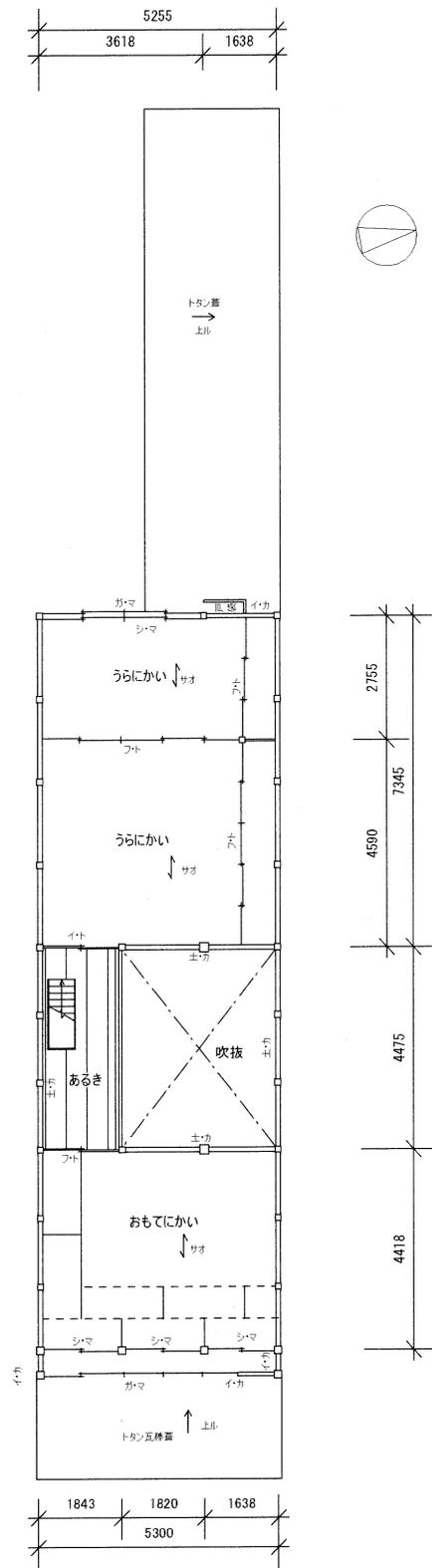
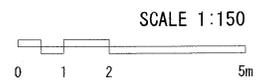


図2-10 山田表装店 2階平面図



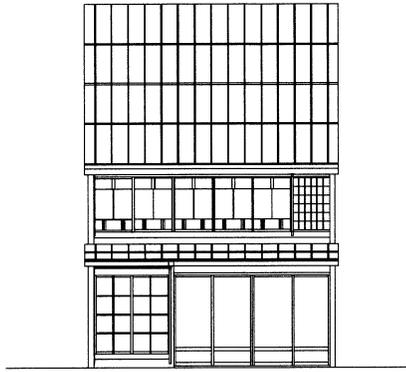


图2-11 山田表装店正面图

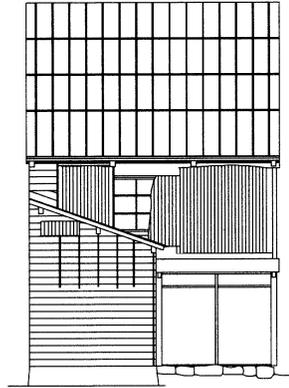


图2-12 山田表装店背面图

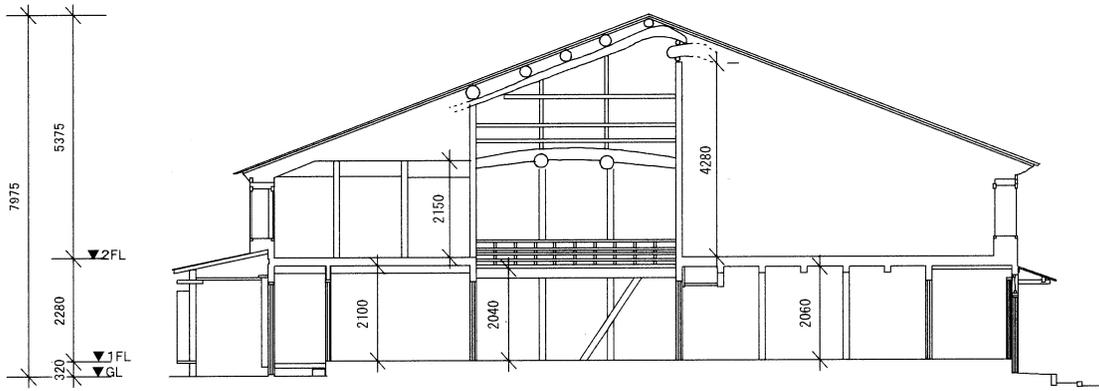


图2-13 山田表装店桁行断面图

SCALE 1:150

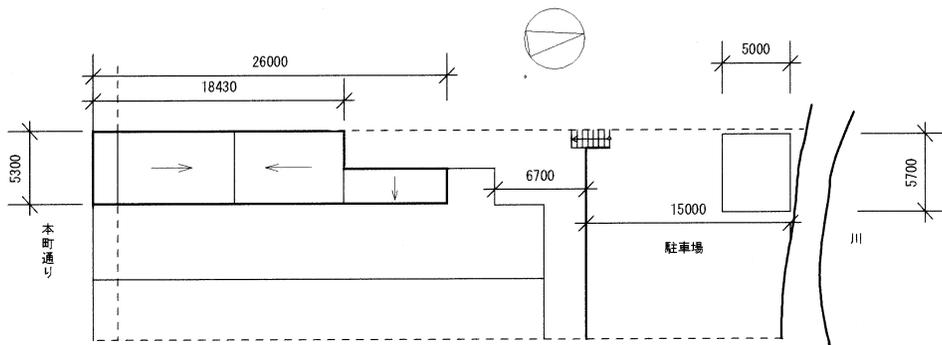
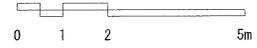


图2-14 山田表装店配置图

SCALE 1:500

3. F家住宅

(1) はじめに

当住宅は大町5丁目に位置する。F家がこの建物を購入したのは昭和26年春のことである。現在F家は裏に新築した建物に住んでおり、町家の1階部分は貸し店舗と事務所になっている。今回の調査では、町家部分の実測と、F夫妻および長女からの聞き取りを行った。

(2) 建築の現状

F家の建物は間口3間、木造2階建の建築である。雁木は落し式、屋根はトタン葺。もとは南側の隣家と柱・壁を共有する「あいや」として建てられたのであり、棟木近くの壁に隣家の棟木の一部が突き出た部分が見える（現在隣家は建て替えられている）。1階の旧ミセ部分と旧チャノマ部分は改造一体化されて貸し店舗となっており、その奥のザシキと3畳間も店舗借用户が使っている。通り土間は表から台所と便所の奥にある事務所へと通じていて、さらにその奥に現在の住居がある。2階はオモテニカイとウラニカイが渡り廊下で繋がれていて階段もあるが、現在は1階が貸し店舗であるため使用できない。従って2階に上がろうとすると、表、裏の屋根に上がり、窓から入らなければならない。旧チャノマの上の吹抜部分には店舗の天井が箱状に飛び出している。ウラニカイの奥、通り土間の上にはさらに4畳ほどの部屋があるが、ウラニカイとの行き来は出来ず、通り土間の階段から上になっている。積雪時は雪の荷重を支えるために、取り外し可能な間柱を家の内部と雁木に入れるので、そのための欠きこみが鴨居など各所に見られる。

(3) 建築の変遷

この住宅は、固定資産台帳によると明治20年の登記となっており、それ以前から存在していたことがわかり、建設は明治前期と推定される。F家の購入以前は桶屋である。大町にはこのような職人が多かったそうである。購入から入居までの間に、大々的な清掃と基礎の補強、若干の増改築を行なっている。まず雁木はもともと造り込み式だったが、雁木上部分の2階の天井が低すぎて使いにくいので、現在の位置までオモテ

ニカイを切断し、落し式とした。また、ザシキの裏に3畳間を付け加えた。昭和28年頃、長男の誕生を機に風呂場（現便所の位置）を設け、ほぼ現在の規模になった。その後、昭和42年に裏側に住居を新築し、そちらに引っ越した。このように町家部分を残したまま裏に新築するのは、町内ではF家をはじめであったそうである。昭和47年頃にミセを現在のように改装して貸し店舗とした。昭和62年に屋根だけの廊下だった部分に壁を入れて、町内会の仕事をするための事務所を作った。平成8年頃に下水道工事があり、通り土間にコンクリートを打った。また、平成9年頃に北隣のI家を購入した。

ミセはセメント倉庫、雑貨屋、貸し部屋、駐車場など様々な用途に使われ、現在に至った。チャノマでは主に接客などを行い、ザシキは居間や寝室として使われた。2階はオモテニカイ、ウラニカイとも下宿人に貸していたが、現在では物置にしている。（吉田想子）

4. 旧I家住宅

(1) はじめに

当住宅は現在、S家の所有である。以前はI家の所有であり、I仏壇店の店舗兼住宅であった。この建物は、明治20年頃に建設されてから現在に至るまで、三度の大きな転換を経ており、その変化の痕跡が建物の各部に残されていて、I家という高田に住んだ一家庭の歴史を垣間見ることができる。

(2) 建築の現状

旧I家は、間口1間（実寸は1間半）、奥行12間、木造2階建である。雁木は落し式、屋根はもとは木羽葺であったが、現在はトタン葺でその表面にはコールトールが塗られている。

通り土間のない、正面の間口の小さい町家である。室の構成は、1階の正面から奥行6間が駐車場、続いて奥行2間の6畳間、そして1間ずつ物置、洗濯所、便所となっている。2階は階段を上がった所に、寝室が2間並び、2間分の渡り廊下を挟んで、道路側に2室ある。以上でわかるように、室の構成は大まかに2間ごとに区切られている。

(3) 建築の変遷

I 仏壇店はもともと長野県の飯山で営業していたが、明治20年頃、高田の現在の地に店を移した。二代目までは実際に仏壇・仏具を店内で製作し、販売も行っていたが、三代目のご主人が地方に働きに出たため、夫人が仏壇・仏具の専門販売をしてI 仏壇店を引き継いだ。

すでに触れたが、この建物には大きく三つの転換期がある。まず最初は昭和29年（長男の誕生）。次いで昭和41年（仏壇・仏具のみを販売）。そして平成9年（持ち主の変更）の三期である。もともと2間ずつ3室（正面からミセ・チャノマ・ザシキ）が続いていたが、昭和29年に3室より後部を増築した（風呂等もこのとき設置）。次いで昭和41年に、チャノマを板敷に変更した。平成9年、S家が購入して、表側3室の内部を改造して車庫にした。この時に吹抜けの部分も天井をはって閉鎖された。（山野敬史）



旧I家 F家

図2-15 F家・旧I家正面



図2-16 F家吹抜



図2-17 旧I家1階車庫



図2-18 旧I家2階オモテザシキ

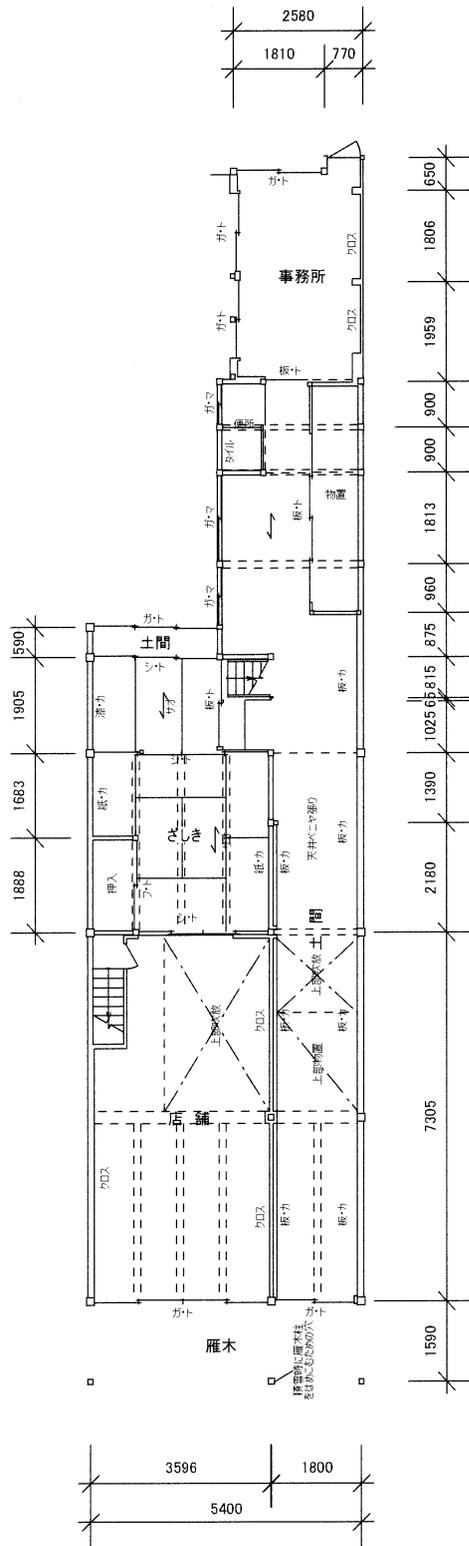


図2-19 F家1階平面図

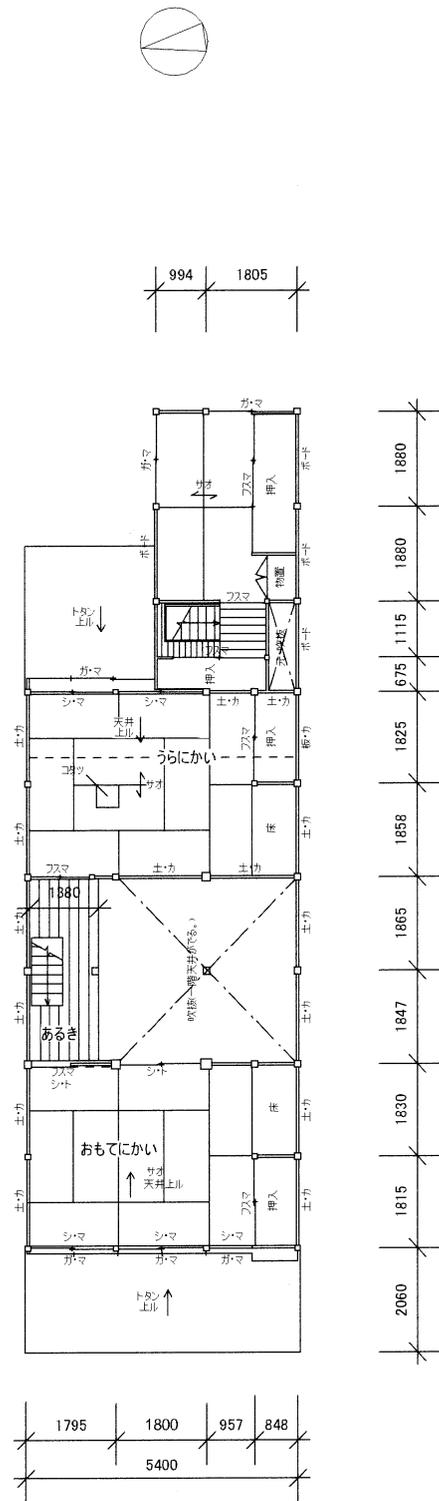
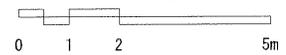


図2-20 F家2階平面図

SCALE 1:150



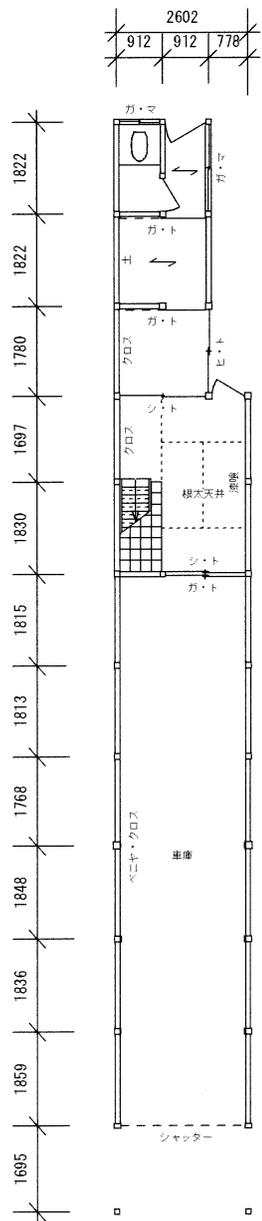


図2-21 旧I家1階平面図

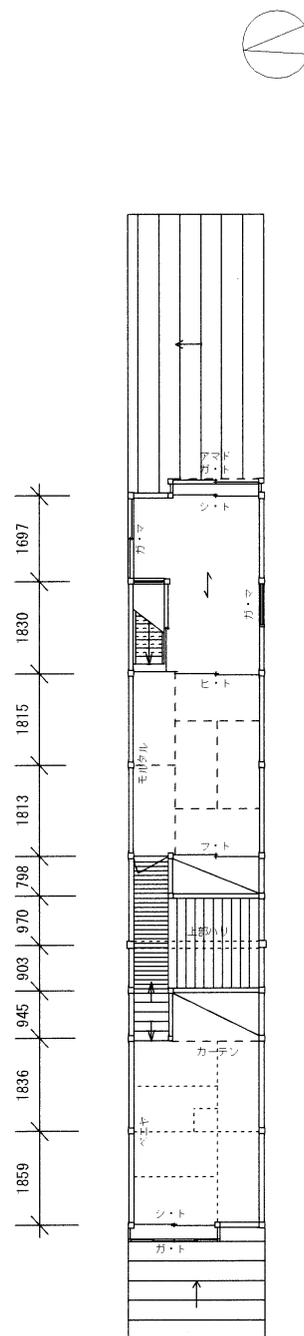
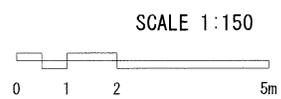


図2-22 旧I家2階平面図



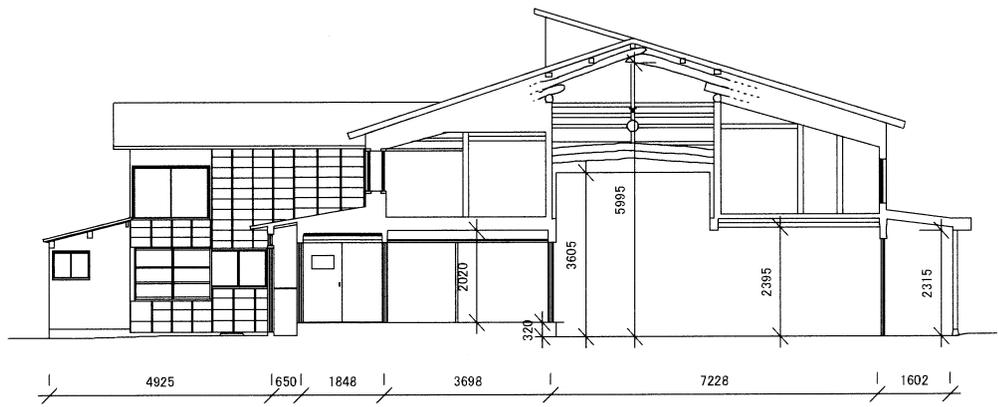


図2-23 F家桁行断面図1

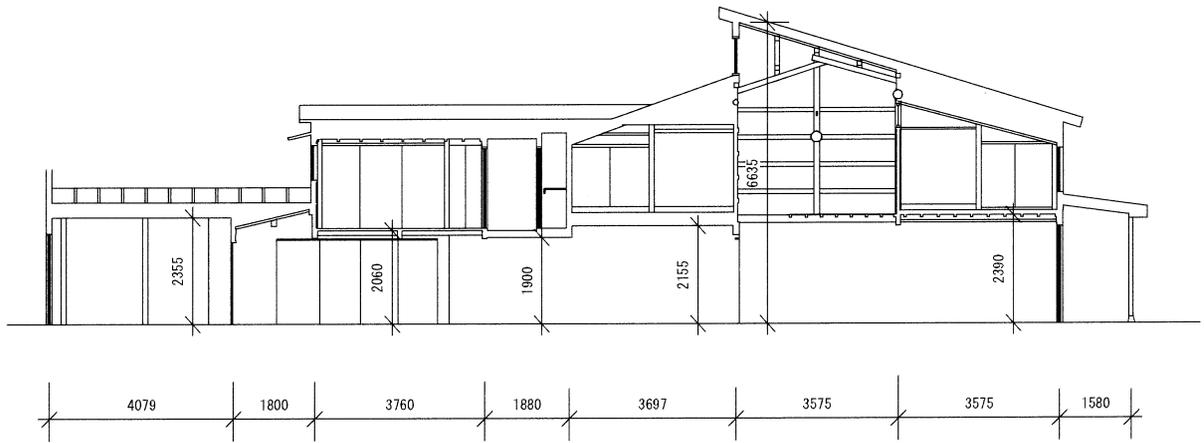


図2-24 F家桁行断面図2

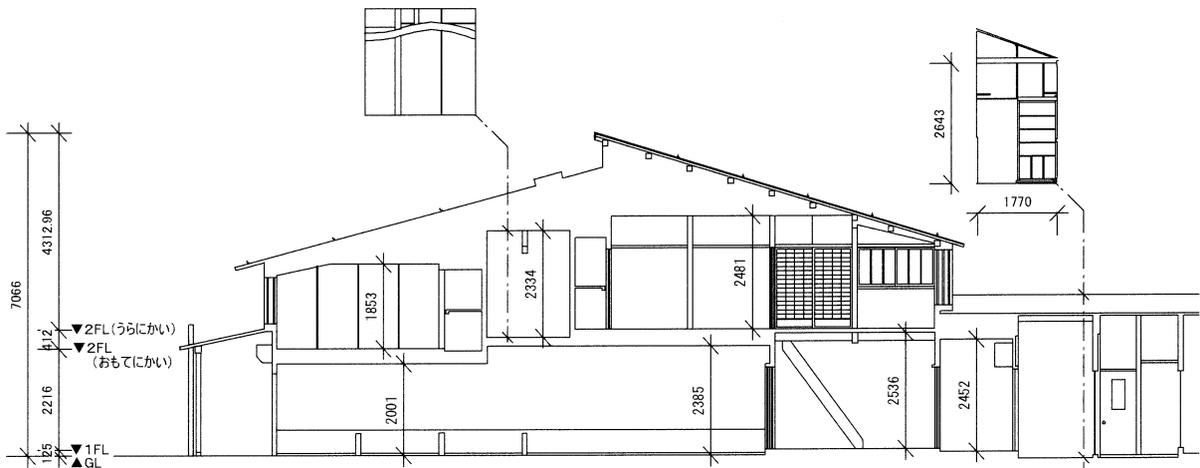
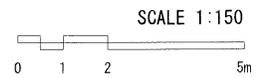


図2-25 F家桁行断面図



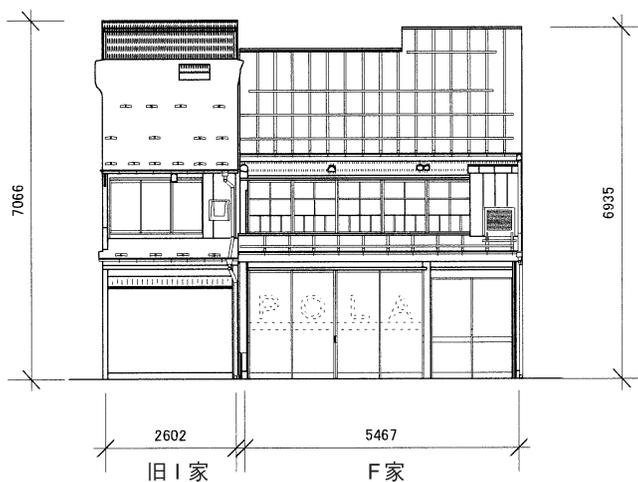


图2-26 F · 旧I家正面图

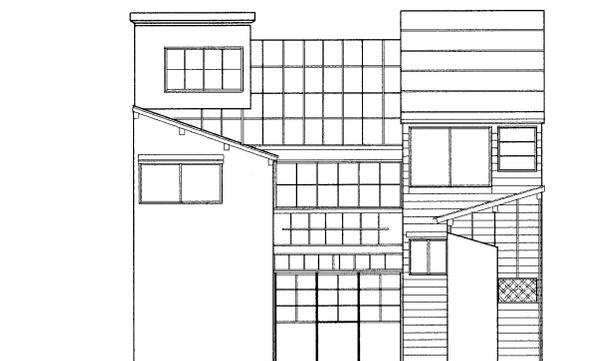


图2-27 F · 旧I家背面图

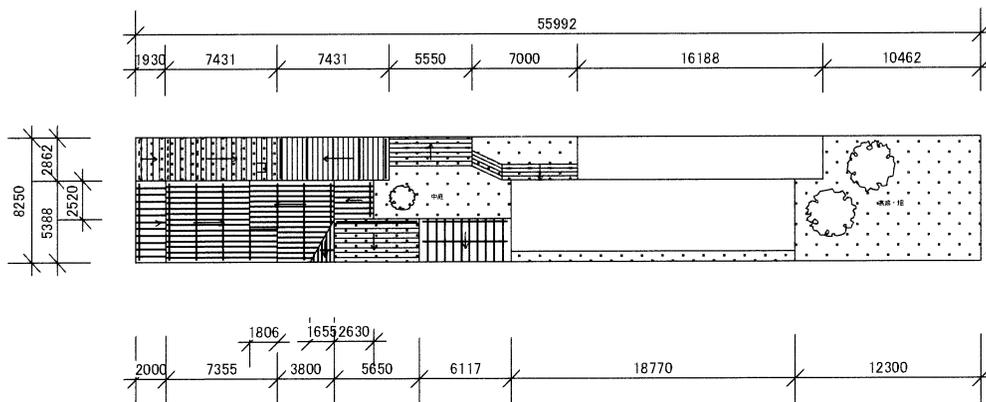
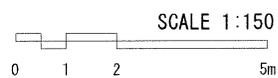


图2-28 F · 旧I家配置图 · 屋根伏图

SCALE 1:500

J・PRU 上越市創造行政研究所

Joetsu city Policy Research Unit

【設立】2000年（平成12年）4月

【目的】上越市創造行政研究所は、本格的な地方分権時代を迎えるなかで自治体が真の自主・自立を果たすため、政策立案能力の向上を目的として設立された上越市の組織内シンクタンクです。行政の現場と連携しながら様々な課題についての調査研究を行い、地域発展へ貢献することを目指して活動しています。

【活動】政策立案に求められる調査研究業務とその研究成果の発信および市民セミナーなどの開催

JPRU03-004

歴史的建造物の保存と活用に関する調査報告書

～町家を活かしたまちづくりへ向けた提言～

平成16年3月



この報告書についてのお問合せは下記へお寄せください。

上越市創造行政研究所

〒943-0806 新潟県上越市木田新田1-1-10

TEL (025) 524-6101 FAX (025) 524-6105

E-mail : souzou@city.joetsu.niigata.jp

URL : <http://www.city.joetsu.niigata.jp/>